

# こどもとの対話をから始まる特別支援教育

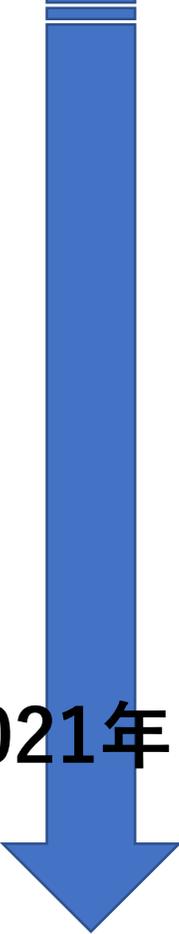
## 現場の学校から考えてみる

\* 担任を支える

\* 授業の在り方を変える

# 特別支援教育

2007年4月 特別支援教育元年

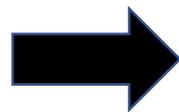


校内委員会  
特別支援教育コーディネーター  
個別の指導計画  
専門家チーム  
通級指導教室  
研修会  
・  
・  
・

2021年2月



対応が分からない  
対応に悩む



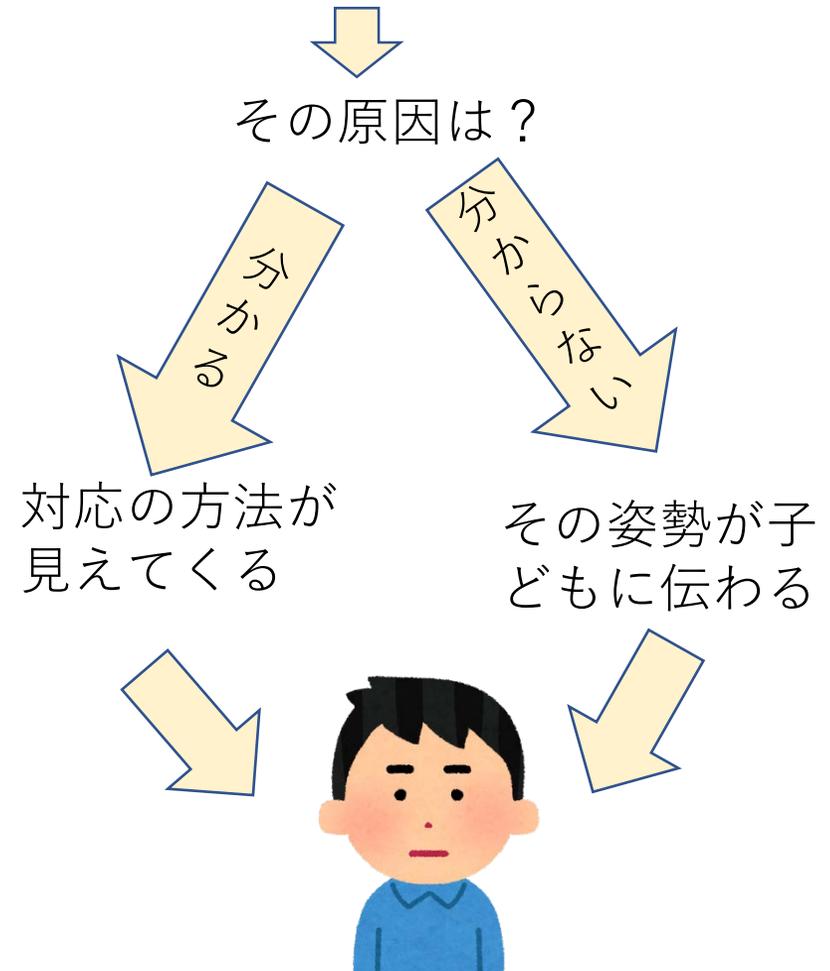
**困った子  
問題のある子**

叱責 努力の強制  
否定・排除  
不適切な教育的対応



こどもとの対話から始まる

なぜそのようなことをするのだろうか？





# LD等通級指導教室(京都市)

小学校 161校  
中学校 73校  
高校 9校

2006年(平成18年)

小学校 4校  
中学校 5校



2020年(令和2年)

小学校 74校  
中学校 26校  
高校 2校

子どもの指導



通級指導教室担当者

担任等への支援

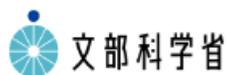
発達障害に関する通級による指導  
担当教員等専門性充実事業 実践事例集

平成30年9月

(令和元年 9月 改定)

(令和2年10月 改定)

文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課



# 専門性のある教員を育てる

京都市

総合育成支援教育マスターコース

校長が推薦する者  
長期休暇中の4日間(終日)

7月28日 学校体制の在り方について  
8月3日 「聞く・話す」の指導  
8月4日 個別の指導計画の作成と活用  
12月25日 アセスメント(総論と学力)

令和2年度

こどもとの対話から始まる

## 授業の姿

『ひとり一人は違う』という意識の拡がり

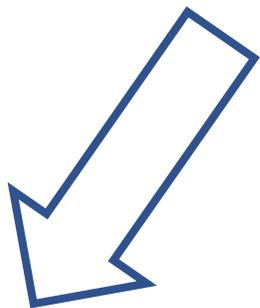
支援を必要とする子にとって分かりやすい授業は、  
他の子にとっても分かりやすい授業



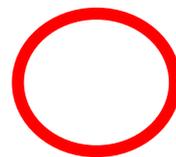
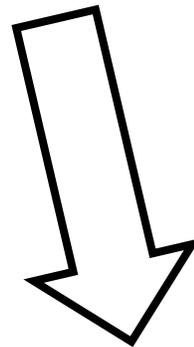
ユニバーサルデザイン授業



# 学び方は一人一人違う



先生の教え方に  
子どもを合わせる



子どもの学び方に応じて、先生  
が教え方を変える



学び方の違いに応じて、いろ  
いろ学び方を選べる授業

# ユニバーサルデザイン授業

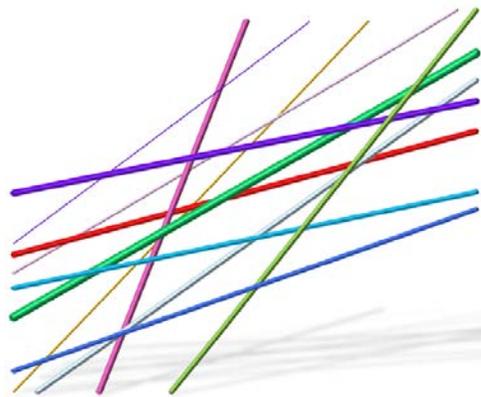
～発達障害等のある子どもを含めて、どの子にもわかりやすい授業～



京都府総合教育センター

# 各地で盛んに

## 通常の学級における ユニバーサルデザインの視点を 生かした授業づくり



福岡県教育センター  
平成27年3月

# 中学校美術 ユニバーサルデザイン 授業ガイドブック



京都市

# 取り組まれている

### 事例3 | 高野中学校の実践例から…… 教育のユニバーサルデザイン化を通して「全ての生徒を支える学校」へ

高野中学校では、全ての生徒にとって学びやすく過ごしやすい学校をつくるため、教科に準拠して、授業づくりや教育環境、学級（学年）経営のユニバーサルデザイン（以下UD）化を推進しています。

- 【目指す学校イメージ】
- 「誰一人の『誰か』を『誰か』に置き換える事のできる学校」
- 取組の概要**
- 考え方** 学び等に「困っている生徒」の困りに気づき、困りに寄り添う
- 具体的な内容**
- 授業づくりのUD化**……生徒の学力向上・教員の授業力UPをめざしたわかる授業の構築  
研修会・UD表（教師用・生徒用）の活用・UDの視点に立った授業観察と分析、個に応じた合理的配慮を行う
  - 学級（学年）経営のUD化**……いじめ、不登校の課題克服に向けた豊かな人間関係の構築  
授業や生徒会活動、行事等、全ての教育活動に、生徒指導の三機能「自己存在感」「自己決定の場」「共感的人間関係」を意識して取り入れる
  - 教育環境のUD化**……心の安定、過ごしやすい環境でカドのないまあるい学校づくり  
掲示物や黒板周辺をシンプルに精選・整飾するほか、ルールをわかりやすく明示する等、生徒の「過ごしにくさ」を改善し、落ち着ける雰囲気をつくる

**生徒目標の授業づくり**

「本物の学び」の視点  
「誰か」を「誰か」に置き換える  
「誰か」を「誰か」に置き換える

「誰か」を「誰か」に置き換える  
「誰か」を「誰か」に置き換える

**合理的配慮**

読むことに困り感のある生徒にはiPadの読み上げ機能を使って授業

**成果と課題**

●**成果**

- ・わかる授業の一手法として、「グループ学習」等生徒が主体的に学ぶ場面を積極的に多く取り入れた結果、全学年で、生徒の学びへの意欲が改善

# 令和2年度 学校教育の重点



京都市の目指す子ども像  
「伝統と文化を受け継ぎ、  
次代と自らの未来を創造する子ども」

## 一人一人の子どもを徹底的に大切にする京都市の教育

～つながり、つたえ、つくりだす～

京都は、1200年を超える長い歴史の中で培われた伝統と文化を大切にし、自由で先駆的な気風を育みながら、個性豊かな活力に満ちたまちを築いてきた。また、幕末から明治にかけての混乱期に、まちの衰退が危惧される中、国の学制発布（明治5年）に先立つ明治2年、「まちづくりは人づくりから」と、町衆（市民）が「龜金（かまどきん）」と呼ばれる私財を投じ、日本で初めて64もの地域制小学校（番組小学校）を創設した。

こうした歴史と伝統を礎に、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」ことを教育実践を支える基本理念に掲げ、各学校・幼稚園が教育目標を保護者・地域と共有しながら、市民ぐるみ・地域ぐるみの教育を推進してきた。

今日、急速なグローバル化やデジタル技術の飛躍的な進化等を背景に、社会は大きな変革期に直面している。こうした中、持続可能でよりよい世界を目指して国連で採択された国際目標「SDGs」の達成に向け、国や分野の垣根を越えて連携する取組が国際社会で広まりつつある。とりわけ、「教育はSDGsの基礎」と言われ、「教育」の果たす役割に大きな期待が寄せられている。

われわれは、教育の力にまちの発展を託した先人の理念と志を受け継ぎ、改めて「地域を学ぶ、地域で学ぶ、地域から学ぶ」実践を発展させ、多様な文化や価値観を尊重し、他者と協働しながら、様々な視点で社会の課題を発見し、その解決に向けて新たな価値を創造し続ける持続可能な社会の創り手を育むために、「つながり、つたえ、つくりだす」本市教育の歩みをさらに確かなものにしていかなければならない。

本冊子は、本市学校教育の年度ごとの重点取組を定めるものです

2020

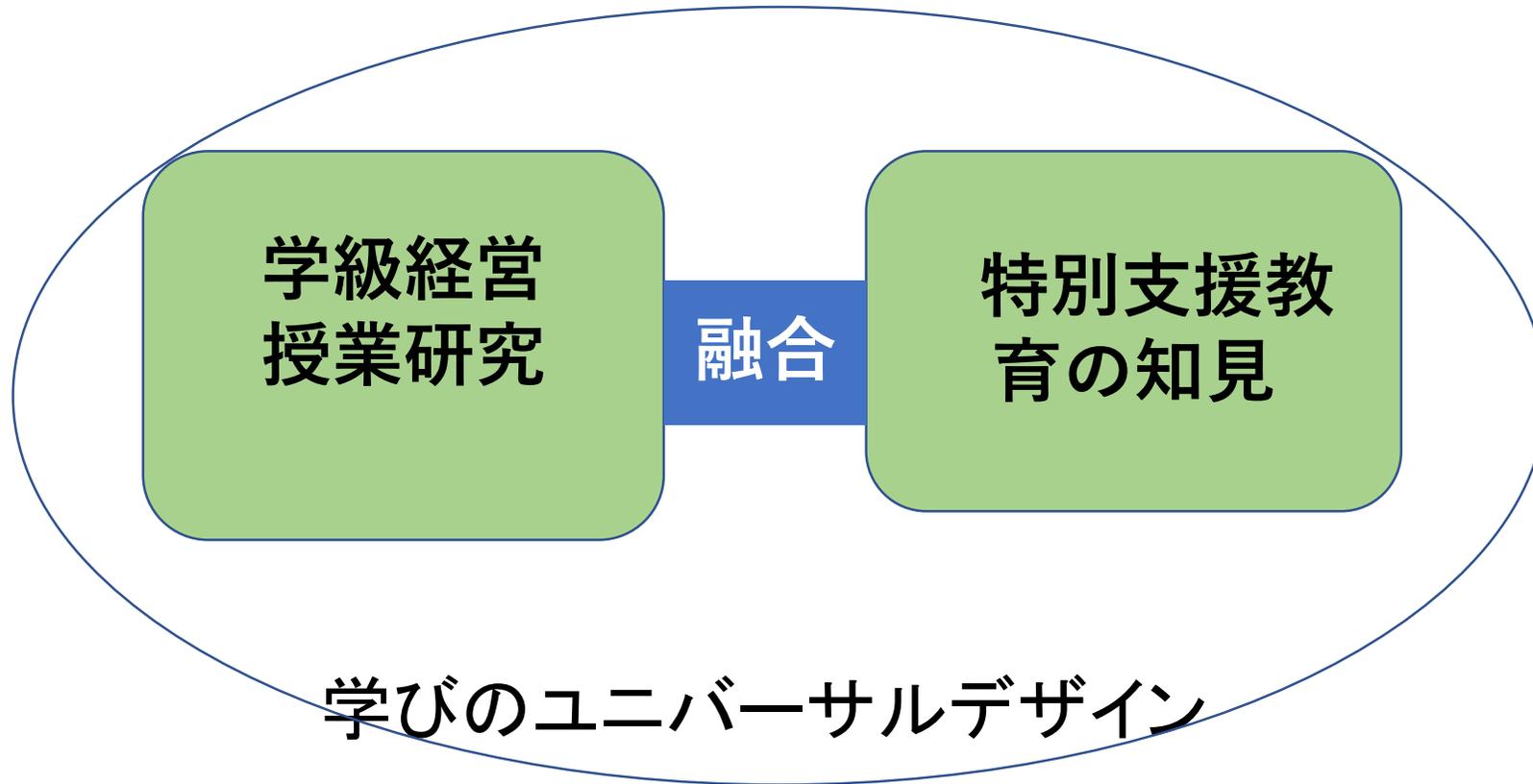
京都市教育委員会

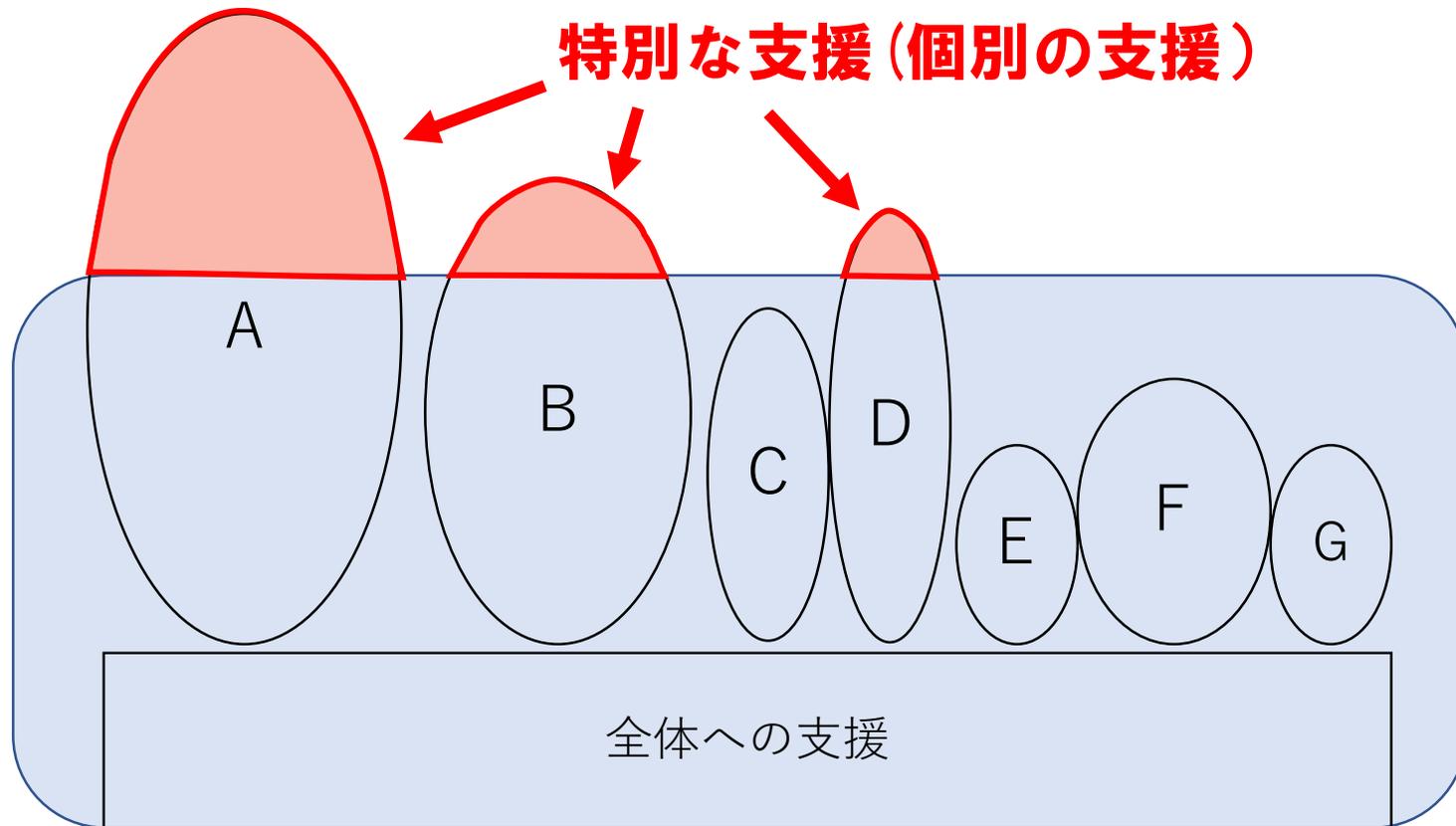
## 第2章 学校運営 7つの柱 ～全教職員が進める確かな学校教育～

### 5. 「困り」を抱える子ども一人一人に対する 支援を行う

② どの子どもにとってもわかりやすい授業づくりや過ごしやすい学校・学級づくりについて、学校全体での共通理解を図るとともに、**ユニバーサルデザインチェック表等を活用し、教職員が連携して、授業や学級経営、学校環境の見直しを進める。**

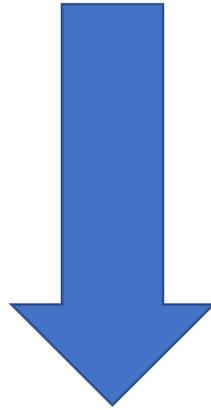
# 誰にもわかりやすい授業





**ユニバーサル  
デザイン**

授業(教育)のユニバーサルデザイン



インクルーシブ教育システム